

もくじ

- 02 ふるさと昔ばなし 波賀野新田・古市地区
ひと・まち輝き
中山誠一さん・千代子さん(瀬利)
- 04 [特集] 市長インタビュー
きを聴く
- 06 街かどReport
- 08 TOWN TOPICS まちの話題
- 10 市政レーダー 篠山市発...
- 15 健康ナビ
- 16 はぐくみ 教育NOW・わくわくKID'S
ぼくとわたしの作品らんど
- 18 スポーツ 人権
- 20 Living Information Smile

※カレンダーは、はずしてご利用ください。

人のうごき

平成19年2月末現在 (前月比)

人口	46,587人	(-26人)
女	24,312人	(-10人)
男	22,275人	(-16人)
世帯数	16,266世帯	(+6世帯)

ホームページ <http://www.city.sasayama.hyogo.jp/>
電子メール e-mail@city.sasayama.hyogo.jp



ふるさと昔ばなし

— 波賀野新田・古市地区 —

「活気に満ちていた街道筋」

私の住む波賀野新田地区から古市地区にかけての街道は、かつて宿場町や問屋町として大いに栄え、昭和30年ごろには、44軒もの商店(波賀野新田17軒、古市27軒)が軒を連ねていました。

通りには、旅館をはじめ米屋、薬屋、雑貨屋などのさまざまな店が並んでいました。中でも、私が小学生だったころにはカフェが登場し、芸者たちの奏でる三味線の美しい音色を聞いては、「なんて優雅なんだろう」と子ども心に思ったものでした。また、年末には「一大誓文払い」が盛大に取り行われ、多くの買い物客であふれかえっていたことをよく覚えています。

ところで、明治32年に大阪と篠山を結ぶ「阪鶴鉄道」(現在のJR福知山線)が開通。それに併せて、古市駅が開業したときは一番のにぎわいで、通勤客や買い物客らで通りは埋め尽くされたそうです。笑い話なんですが、開通当初は初めて見る蒸気機関車に草履を脱いで乗る方がおられ、プラットホームには、草履が残されたままになっていたということです。

近年、福知山線の複線電化による鉄道交通の発達や大型店舗がまちの中心部に進出したことで、通りを訪れる方も少なくなりました。私は、現在の子どもたちに当時の活気に満ちていた情景を伝えていくことで、子どもたちが地域のすばらしさを知り、関心を寄せてくれることを願っています。

投稿 田中弘司さん



当時の情景を思い出し、街道筋の道しるべに立られる田中さん

※このコーナーでは、地域にまつわるユニークな昔話を紹介します。ふるさとの懐かしい思い出話や言い伝えなどを教えてください。

市民の皆さんの投稿をお待ちしています。

■問い合わせ 秘書広報課広報係 ☎552-5112

ひと・まち 輝き

「ひよつご健康 夫婦大賞」を受賞

「元氣」で「いきいき」と「自立した生活」を送られている、県内に在住の八十五歳以上の夫婦を表彰する「ひよつご健康夫婦大賞」(兵庫県健康財団主催)。今年度、二十四組の夫婦が表彰されました。

健やかに暮らした約90年 家族の笑顔が生きる喜び

瀬利 中山誠一さん(95)
千代子さん(93)



市内では、健やかに長寿を楽しんでいる中山誠一さん・千代子さんが夫婦が選ばれ、二月二十六日に表彰状と記念品が伝達されました。今回の受賞を受けてお二人は、「とてもありがたいことです。これまでの生活は、長いようでとても短い感じがしますが、長生きできて幸せです」と手を合わせて喜ばれています。

さて、中山さん夫妻は、誠一さんが明治四十五年、千代子さんは大正二年生まれ。昭和十二年に結婚されて以来、共に農業をしながら四人(三男一女)の子どもを育ててこられました。また、農閑期の毎年十月ごろから翌年三月末までの約二十七年の間、杜氏として灘五郷まで出稼ぎに行かれていた誠一さん。その留守は、千代子さんが女手一人でした。かりと守ってこられたのだそうです。千代子さんは、「地域の皆さんに大目に見守っていただき、無事に生活を送ることができました」と当時を振り返られます。今では、長男の孝夫さん・真佐子さん夫妻と孫夫婦、ひ孫二人の六人に囲まれて、幸せに暮らされています。

長寿の秘けつは規則正しい生活と食事

現在、お二人の健康状態は、誠一さんの耳が遠くなったほかは、すべて良好。長寿の秘けつとしては、規

則正しい生活をすることや、三度の食事を好き嫌いなく、何でもよくかんで食べ、昼寝を欠かさないことだそうです。ここ数年、千代子さんは家の中で過ごすことが多くなりましたが、誠一さんは天気の良い日には、散歩に出掛けられたり、畑で山の芋をつくられたりしています。

また、お二人の元氣の源は、「おじいちゃん、おばあちゃん」と呼んで慕ってくれる孫夫婦やひ孫の存在と家族の笑顔。お二人は、「家族の笑顔が、私たち二人に生きる喜びと希望を与え、ここまで長生きすることができたんですよ」と満面に笑みをたたえて話されます。

最後に、長年にわたりお二人のそばで体調を管理されてきた真佐子さんは、「お風呂や着替えなど、身の回りの自分でできることは自分でしてくれるので、本当に手がかかりません。今後も健康に気を付けて、元気でいてほしいですね」とお二人を温かく見つめながら話されています。



受賞の喜びを分かち合う中山家の皆さん(写真=前列左から雄貴くん、誠一さん、千代子さん、朝賀ちゃん、後列左から真一さん、孝夫さん、真佐子さん、利香さん)